

山田 珠実

Tamami YAMADA

母の死をきっかけに、ダンサーでない人々の身体性に惹きつけられる。2004年、50歳以上の長久手町民に振付したダンス作品「蜜の歳月」を発表。以来、個人面談や取材から起こしたテキストを基に、ドキュメンタリーとも呼べるダンス作品を創作することを得意とする。主な作品に、「表現クラブがやがや」の知的障がいを持つメンバーの「家族」「仕事」「性」に取材した「みつつのうたでドントカ」など。2011年からはヨガの経験と解剖学への興味から、中高年者を対象にヨガ教室を開講。ダンスの枠に留まらず、身体そのものが孕む謎についての探求を熱心に行う。愛知淑徳大学、名古屋学芸大学非常勤講師。

連絡先(担当) 山田珠実

住 所 〒612-8113 京都府京都市伏見区向島中島町22-29

E-mail yamadatamami3@gmail.com

在 住 地 京都府京都市

出 身 地 愛知県名古屋市



Photo: 草本利枝

【活動歴】

〈1993~97年〉欧州でダンサーとして活動。
〈2001年〉SPAC振付コンクールファイナリスト。
〈2003年〉「蜜の歳月」で市民参加によるダンス作品の創作を開始。
〈2004~07年〉京都、札幌、福岡、山口、ワシントンD.C.でリズムラーマン・ダンスエクステンションをアシスト。通訳を兼ねる。市民参加作品の振付手法を学ぶ。
〈2005~10年〉バレエ団の委託によりボレロ、G線上のアリア等を振付、クラナダハラ(メキシコ)等で公演。
〈2008~11年〉「可見市多文化共生プロジェクト」4年にわたり外国籍の出演者の日常に取材し、振付け。
〈2008~〉表現クラブがやがやと「みつつのうたでドントカ」を発表。以降、ワークショップ活動を継続し、年に1度程度のペースでライブパフォーマンスを行う。

〈2010~16年〉静岡市で市民参加による「バラ色の人生」を発表以降、3作品を提供。活動から生まれた「駿府町Happy舞踊団」に継続して作品を振付け。
〈2011~〉世田谷パブリックシアター「地域の物語」ワークショップの進行役。舞台での発表公演までの構成等を行う。
〈2017~〉大学の授業の一環として、「愛知淑徳大学ジェンダーダイバシティー表現演習」発表公演を他の教員2名と共に構成、演出。ダン支支援アーティストとしては、多治見市文化会館(2013年)、高知市文化プラザかるぼーと(2018年)において、市民参加によるダンス作品を制作し、発表。

【ワークショップ歴】

〈2004~09年〉学習発表会等の作品制作のためのワークショップ

ブ(名古屋市、瀬戸市、東京都の小学校)
〈2005年~〉「カラダワークショップ」シリーズ(世田谷パブリックシアター)「大人のための身体表現講座」等(多治見市文化会館)
〈2006年~〉知的障害者とそうでない人のための身体で遊ぶワークショップ、親子のための「リズムとからだで遊ぼう」ワークショップ(練馬区光が丘区民センターで年5回程度を継続中)
〈2006年~〉大学の授業として、パフォーマンスアートについて指導(愛知淑徳大学、名古屋大学、名古屋学芸大学)
〈2007年~〉「ダンスと思い出語り」ワークショップ
〈2011年~〉世田谷パブリックシアター「地域の物語」ワークショップの進行
〈2016年~2020年〉追手門学園高校表現コミュニケーションコースの高校生と共に行う、介護付き老人ホームでのワークショップ

可能なワークショップ等のスタイル

アウトリーチ

①小学校・中学校・高校でのアウトリーチ

前半は身体を使うにあたってのちょっとしたコツ、日常に活かせる解剖学を楽しく伝え、後半は即興によってダンスを作って見せます。

② 教員、施設職員、等へのアウトリーチ

自身の身体のケアについて幾つかの実践を伝えます。その上でコミュニケーションにまつわるゲームをいくつか行い、他者の身体と関わりかたについて一緒に考えます。

③高齢者施設でのアウトリーチ

それぞれの身体の出来る範囲で、可動できる関節

すべてにアプローチを試みながら、音楽に身体をのせる喜びを強調したワークを行います。

▶参加適正人数：15~20名程度 ▶適正時間：学校の授業の場合は2コマ、高齢者施設では45~50分 ▶アシスタントの有無：参加者が10名を超える場合は1名必要

公募ワークショップ

①「身体についての基礎の基礎」

身体というものを捉え直すためのワークショップ。無駄な力みなく動く為のちょっとしたコツ、知らないこともったいない解剖学を分かりやすく伝えます。

②「踊って、作って、よくよく見てみる」

日常会話から即興したり、簡単なダンスの振付をつくったりします。即興を積み重ね内容を掘り下げる、あるいは、振付からグループクリエーションを行う、のどちらかに展開します。

▶対象：対象によって①②の内容をアレンジ可能
▶参加適正人数：25名まで ▶適正時間：60~120分 ▶アシスタントの有無：1名

◎実施条件(共通)

▶1日の実施可能回数・時間：計180分以内▶必要機材等：iPod等を接続できる音響プレイヤー、状況によりピンマイク ▶場所：会議室から体育館まで対応可能

この事業で可能な公演スタイル

レポートリー作品

『人体について』

身体の骨格や内臓の動きについての映像、レクチャーを取り混ぜながら進行するダンス作品

▶上演時間：55分 ▶出演者数：3~4名(登録アーティスト+共演者) ▶同行スタッフ：映像オペレーター(相談可能) ▶現地スタッフ：音響1名、舞台監督1名、照明1名 ▶上演環境：(1)会場の広さ・形状：9m×8m以上 (2)床：リノリウム・木・カーペット・畳など応相談 (3)必要機材、舞台セッ

ト：プロジェクター、自立する小型スクリーン、ピアノ(会場の広さ等により相談)

市民参加作品

『人体について(市民参加バージョン)』

身体の骨格や内臓の動きについての映像、レクチャーを取り混ぜながら進行するダンス作品

▶上演時間：55分 ▶出演者数：3~4名(登録アーティスト+アシスタント兼共演者) ▶クリエーション参加者数・回数：最大15名、2時間×3~7

回程度(本番と前日のリハーサルは除く) ▶同行スタッフ：映像オペレーター(相談可能) ▶現地スタッフ：照明仕込み1名、音響1名、舞台監督1名

▶上演環境：(1)会場の広さ・形状：10m×9m以上(2)床：リノリウム・木・カーペット・畳など応相談 (3)必要機材、舞台セット：プロジェクター、自立する小型スクリーン、ピアノ(会場の広さ等により相談)

▶その他：リハーサル時間の長さによって市民参加によるパートのボリュームは調節可能